

令和8年2月12日

報道関係者

出版関係者 各位

国立民族学博物館

広報企画会議長 山中 由里子

報道関係者と民博との懇談会のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本館の広報活動については、平素から格別のご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、本館の研究や展示についての旬な話題をより詳しくお伝えするために、標記懇談会を下記のとおり開催いたしますので、ご多用のこととは存じますが、是非ご出席くださいますようご案内申し上げます。

なお、今回の懇談会については、館内の会議室での開催にあわせて、Web会議システム（Zoom）による配信を行います。懇談会は事前申込制とさせていただきますので、別紙の報道関係者と民博との懇談会参加申込書に必要事項を記載のうえ、2月17日（火）までにメールにてご返信ください。

来館での参加を希望される方は、本紙を印刷、またはスマートフォンで表示した画面を自然文化園窓口（車両の方は迎賓館口）にてご提示ください。同園内を無料でご通行いただけます。

敬具

記

日 時：令和8年2月19日（木）15:30～17:00 第1会議室

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続き館長室にてご懇談ください。

○主な話題

- ・特別展関連 研究公演『シルクロードの音色——中央アジアの楽器と伝統音楽』 （話者：末森薫 准教授）
- ・企画展関連 みんぱく映画会『秘境ヒマラヤ』 （話者：末森薫 准教授）
- ・社会連携ワークショップ『「博物館と若者をつなぐものは何か？——アクセシビリティから考える博物館の社会連携ワークショップ——」実施報告』 （話者：邱君妮（ちょうちゅんに） 機関研究員）
- ・最新の研究『近代日本におけるイスラームの転回—漂泊する知の考古学』 （話者：黒田賢治 准教授）
- ・最新の研究『ヶは言語学のヶ』 （話者：吉岡乾 准教授）

※話題の詳細については、別紙「話題一覧」をご参照ください。

報道関係者と民博との懇談会参加申込書

報道関係者と民博との懇談会に、

ZOOM にて参加する

来館して参加する

貴社名 _____

御職名 _____

御芳名 _____

メールアドレス (ZOOM 参加者のみ)

(こちらのアドレスに ZOOM のミーティング用 URL を送付します。)

【ZOOMについて】

- ・ZOOM 参加メールは後日に配信します。メールに ZOOM のミーティング用 URL を記載しておりますのでご確認ください。
- ・2月19日(木)15:15から接続が可能となりますので、参加メールに記載の URL からミーティングルームにお入りください。
- ・ミーティングルームに入室の際はご所属と氏名をご表示ください。

※事前に ZOOM アプリのインストールをお願いします。

※懇談会開始時に参加者全員に強制ミュートをかけさせていただきます。

※懇談会中はミュート設定をオンにし、音声が出ないようにお願いします。

質問や発言をしたい場合、ミュートをオフにしていただければ司会者が指名します。

不適切な発言等により進行に支障が生じる場合は退室いただく場合がございます。

令和8年2月19日（木）報道関係者と民博との懇談会
15：30～17：00 於：第一会議室

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

2026年2月19日(木)15:30～17:00

懇談会

1. 挨拶

— 関 雄二 (館長) —

2. ニュースリリース

●みんぱくの最新情報と今後3ヶ月の行事をご案内いたします。

— 山中 由里子 (議長) —

3. 特別展関連 研究公演「シルクロードの音色——中央アジアの楽器と伝統音楽」

本研究公演は、中央アジアの歴史の中で生み出された音楽、とくにウズベキスタンとカザフスタンの伝統音楽を中心に紹介します。伝統音楽の演奏とともに、シルクロードをつうじて各地に広がった楽器の解説も交えながら、中央アジアの伝統的な音楽を広く知っていただくとともに、特別展へのいっそうの理解を深める機会としていただきたいと思います。



日 時：2026年3月28日(土)13時30分～16時(12時30分開場)

会 場：みんぱくインテリジェントホール（講堂）(定員400名)

参加費：要展示観覧券（一般780円、特別展をご覧になる場合は一般1,200円）※イベント参加費は不要

出 演：駒崎万集（二弦楽器）、ドイラ（太鼓）奏者、

イナーラ・セリクパエヴァ（ドンブラ（二弦楽器）奏者）、高橋直己（カザフ民謡 歌手）

司 会：寺村裕史（本館 准教授）、末森薰（本館 准教授）

主 催：国立民族学博物館

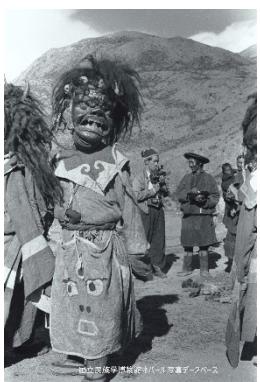
※一般受付／2月24日(火)～3月25日(水)

— 末森 薫 (人類基礎理論研究部 准教授) —

4. 企画展関連 みんぱく映画会

『秘境ヒマラヤ』

1950年代のドルポの様子を記録した貴重な民族誌映像を上映します。本作の鑑賞および解説をとおして、企画展で焦点をあてるドルポの地域的特徴や文化を深堀します。



※本作には鳥葬などセンシティブな場面が含まれます。

バクチャム（仮面おどり）を取材する

大森栄（1958年、高山龍三撮影）

『国立民族学博物館ネパール写真データベース』(C)

日 時 2026年4月12日(土)13時30分～16時(12時30分開場)
会 場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員350名)
参加費 要展示観覧券(一般780円、特別展をご覧になる場合は一般1,200円)※イベント参加費は不要
司 会 末森薰(本館准教授)
解 説 南真木人(本館教授)、工藤さくら(本館特任助教・人文知コミュニケーション)、
稻葉香(美容師・ドルボ研究家・写真家)
※事前申込制(本人を含む2名まで)、先着順
※一般受付/3月9日(月)～4月8日(水)

— 末森 薫(人類基礎理論研究部准教授) —

5. 社会連携ワークショップ

「博物館と若者をつなぐものは何か? — アクセシビリティから考える

博物館の社会連携ワークショップ — 実施報告

国立民族学博物館と東京藝術大学の実践事例を共有し、「アクセシビリティ」の視点から、対話をとおして若年層への効果的なアプローチを探るワークショップについて、ご報告いたします。



— 邱君妮(ちょうちゅんに)(学術資源研究開発センター機関研究員) —

6. 最新の研究紹介

『近代日本におけるイスラームの転回—漂泊する知の考古学』

西洋と中国という経路によってもたらされ、仏教やアジア主義といったフィルターを通して変容し、やがてその一部は忘れ去られていった大正初期までの日本におけるイスラームの知の系譜を掘り起きました。



— 黒田 賢治(グローバル現象研究部准教授) —

7. 最新の研究紹介

『ゲは言語学のゲ』

月刊文芸誌『群像』で2年間連載したエッセイ（一部）の書籍化。
語学や個別言語ではなく言語学をテーマとしたエッセイ集で、言
語学的な物事の考え方を紹介しつつ、そういった視点から世の中
を見ると何が見えるかを語ります。



— 吉岡 乾（人類基礎理論研究部 准教授）—



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

お問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp